

アレルギー分野

炎症物質分泌モデル細胞を用いた評価

炎症物質は細胞に刺激を与えることで分泌されます
モデル細胞を使用してアレルギーへの作用を評価します

(ヒスタミン分泌能を持つ肥満細胞や好塩基球をモデル細胞として利用)

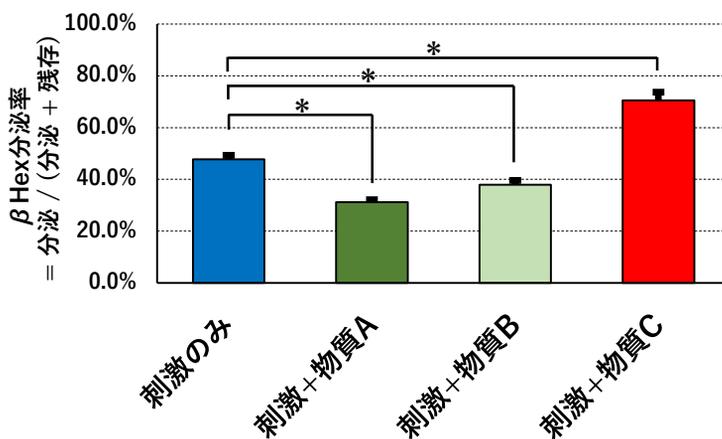
βヘキササミニダーゼ定量 (スクリーニング)

分泌現象へおよぼす濃度・条件を広範囲に探索評価します

刺激を与えることで細胞外に分泌された
βヘキササミニダーゼ (βHex) と
細胞に残ったβHexの酵素活性を測定します

分泌能を持つRBL-2H3細胞に異なる物質を
加え刺激したところ以下の結果を得ました

- 物質AとBは刺激による分泌を抑制
 - 物質Cは刺激による分泌を促進
- (n=4, * : p<0.05 vs 刺激のみ)



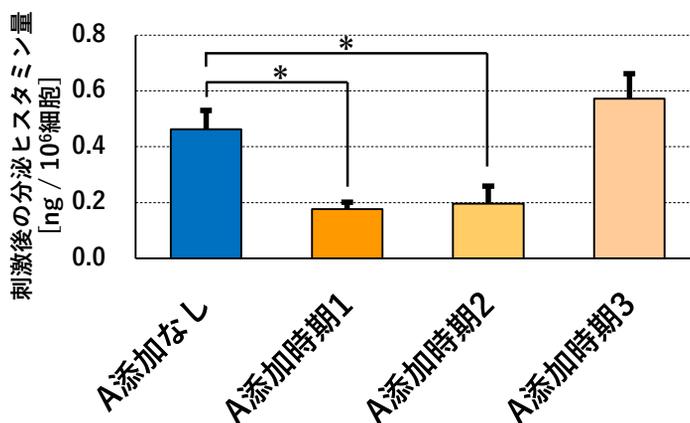
ヒスタミン定量

刺激によって細胞から分泌されたヒスタミンを測定します

刺激を与えることで細胞外に分泌された
ヒスタミンをELISA法により測定します

スクリーニング結果を参考に物質Aの
添加時期を変えた上でRBL-2H3細胞を刺激
したところ以下の結果を得ました

- 添加時期1・2ではヒスタミン分泌を抑制
 - 添加時期3ではヒスタミン分泌に有意差なし
- (n=3, * : p<0.05vs A添加なし)



ご予算や対象物質に応じて最適な測定手法をご提案いたします